



【平成31年1月号】

清水小学校

校長 高井正樹

バイキング給食を味わう6年生

12月7日（金）、6年生が楽しみにしていた「バイキング給食」が行われました。毎年恒例の行事で、小学校の最後の思い出に！という気持ちを込めて、給食センターの調理員の皆さんが、たくさんのメニューを振る舞ってくださいます。今回も主食からデザートまで、20品以上の料理がテーブルに並びました。子どもたちは、栄養バランスを考えながらお好みの料理を選び、「おいしい！」を連発して、満面の笑みでお腹一杯いただきました。給食センターの皆さん、ありがとうございました。



税について学ぶ6年生



12月19日（水）、6年生を対象に「租税教室」が行われました。清水町役場税務課の藤田さんと西山さんが講師となり、どんな税金があるのか、何のために税金はあるのか、税金はどんなことに使われているのかなどについて、DVDを視聴したり、クイズを考えたりしながら、税金の基礎知識を教えていただきました。また、租税教室の最後には“1億円”の重さを体験するコーナーもあり（もちろん見本ですが・・・）、

楽しく税金について学ぶことができました。

全校を引っ張っていく6年生

1年間で最も長い学期、2学期が終わりました。2学期を振り返ると、胆振東部地震に伴うブラックアウトで2日間臨時休校となる波乱のスタートとなりましたが、子どもたちはその苦境をものともせず、日々の学習に一生懸命取り組み、ひと回りもふた回りもたくましく成長してきました。特に児童会長の砂田行蔵くんをはじめとする6年生たちは、あいさつ運動や廊下の歩き方改善運動、朝のおはよう会など様々な取組を企画・実践し、全校をリードしてく



れました。

3学期は2か月ほどの短い間ですが、6年生には残りの小学校生活を楽しんで、充実したものにしていってほしいです。また、1～5年生には6年生が築き上げてきた清水小の伝統をしっかりと受け継ぎ、しっかりと新しい年度に向かう準備をしていってほしいと思います。

御影小学校

外国語活動を参観に来校されました



11月29日(木)に御影中学校の英語担当の安食先生が来校されました。子どもたちの様子や、マライア先生の指導の様子を参観されました。写真は3年生ですが、来年度中学校に入学する6年生の様子も参観されました。少しでも、中学校との接続につながればと思います。



冬休み学びサポート行いました!

3年生以上の児童を対象に冬休み学びサポートを12月27日(木)～28日(金)の2日間実施しました。2日間で延べ73名の児童が参加し、地域のベテラン講師陣のみなさん(中河さん、鈴木さん、清水さん)や御影中学校の宗形教頭先生、三村先生が、やさしく丁寧



に指導していただきます。本当にありがとうございました。今回は、清水高校の生徒の皆さんは都合が悪く来ていただけませんでした。夏のサポートの際、来ていただき、今回も子どもたちが楽しみにしていたので、次年度は、都合が合えば協力していただければと思います。



(教頭 川崎 広輝)

清水中学校

冬休みの過ごし方

12月22日(土)から1月14日(月)まで24日間の冬休み。この長期休業を活用して、1・2年生は寒い中でも引き続き部活動に励み、体力や技能の向上を図るとともに、学年の学習会に参加し、基礎・基本の定着や苦手教科の克服を目指します。そして3年生も自身の進路実現に向けて真剣な表情で学習会に参



加し頑張ります。

冬季休業中の学習会は、学年毎に10日程度を設定し、希望者が問題集や宿題を持ち寄って行います。先生方は学年毎にサポートに入ります。また、3年生は学習と並行して受験本番に向けての面接練習にも力が入ります。「志望動機はなんですか。」「将来の夢は。」「自己PRをください。」など次々と来る質問に緊張しながらも応えます。



ふと3年生の教室を見渡すと、そこには生徒手作りの日めくりカレンダーがありました。「桜咲くまでもう一息・・・」「必死であなたが向き合ってきた事を信じて」充実した中学校生活を送り、受験を乗り越え卒業するまであとわずか。



本校卒業生として桜を咲かせ堂々と巣立っていく姿を願っています。

(教頭 須藤 正博)

御影中学校

校長 塚原 雄二

清水ミライ若者会議実施 みんなで考える人口減少時代

～自分たちのライフプランを考えよう～ 中学校3年生の視点で清水町の未来を考える

12月11日(火)に御影中3年生を対象として、「清水ミライ若者会議」が実施されました。この会議は清水町の未来を考えてもらうために、各年代(中学3学年・高校全学年)に設置し、自分たちのライフプランを考える機会を提供するものです。

具体的にはワークショップやフォーラムの開催を予定しています。ワークショップで生徒等が自ら考えまとめたことを発表してもらい、実現可能な支援策は将来に向けて町が施策化することを目的としています。

会議の前半には、清水町役場の前田真企画課長補佐から「清水町の人口減少の現状と課題について」の講話がありました。「少子化の原因は」「少子化で困ることって何だろう」「自分のこれからの人生を具体的に考えよう」「自分の人生は自分で決める」「人生の正解はないが、人生の先輩として、人生の将来設計(ライフデザイン)を一緒に考えよう」などの問題提起がありました。



現状としては、若い世代の「未婚化」「晩婚化」「晩産化」が出生率の低下、少子化につながっているのはまぎれもない事実であることがわかりました。町としては「結婚、妊娠、出産」という個人の選択に、行政が介入しようとしているわけではなく、「いずれ結婚するつもり」と考えている約8割の未婚者をどう支えていくかという課題を解決したいと考えています、ということでした。そのためには、生徒の皆さんが、「将来、どういう自分になっていたいか」「その時に清水町はどういう町であってほしいか」を考えて欲しい。これからのミライをつくるのはあなたたち若者で、それを支えるのが私たち大人の役割ということで

話はおわりました。

会議の後半には、「町の未来づくりのクロスロード」というテーマで、用意した問題に対してグループごとに各自「Yes」「No」の意見をだし、話し合うことを実際に行ってみました。グループには生徒の他に大人も入り、それぞれの立場で意見を出し合いました。「Yes」「No」を選んだ理由を他から聞き、多くの価値観や視点に触れ、問題を自分のこととして考え、他者の様々な考えを交流することができま

した。具体的には下記の問題を例にして、災害時に即時に判断が必要な課題があり、判断が分かれる問題に接して、考え、悩みをみんなで話し合いました。各グループのまとめでは「Yes」「No」のそれぞれのメリット、デメリットを考え、他の人の意見を聞きながら一つの意見に集約していきました。最後にそれぞれのグループのまとめを発表しましたが、結論はさまざまで、なるほどという意見が多く非常に盛り上がりました。

最後に、「あなたは清水町長です。みんなが清水町で幸せに住み続けてもらうために、対策を考えています。そうした時にあなたは何を実行しますか」という問題を生徒は短時間ではありますが、考え、各グループ一人に代表して発表してもらいました。中学生の目線での解決策ですが、この回答にもメリット、デメリットがあるので、それも含めてどのようにしていったらよいか、宿題としてみなさんに考えて欲しいと最後をまとめました。3年生と大人も含めた清水町の未来を見つめなおす大切な時間、そして有意義な時間になりました。

問1 大きな地震のため、避難所（小学校体育館）に避難しなければなりません。しかし、家族同然の飼い犬[モモちゃんメス三歳]がいます。あなたは一緒に避難所に連れていきますか？

問2 避難所には500人が避難しています。やっとのことで避難所におにぎりが300個届きました。あなたは、おにぎりを配りますか？



◆これからの清水町が幸せになるために生徒が考えた施策

- 1 ゲーム屋が少ない
- 2 チーズでお祭りができないかな
- 3 薬局が少ない
- 4 交流できる場、観光スポットをつくる
- 5 大きいデパート、映画館、ショッピングモールをつくる

清水高等学校

校長 平野道雄

「第34回合唱祭」と「清水高校の総合学科を語る集い」を

同日開催しました！

12月8日（土）午前、毎年恒例の合唱祭を、今年は文化センターの改修に伴い、本校体育館で開催しました。伝統の「第九」と、各クラスで選曲した自由曲を、立ち見になるほどたくさん来てくれた地域の方や保護者に聞いていただきました。音



【金賞に輝いた3Aのアンコール合唱】

響で劣る分は各クラスの練習でカバー、ピアノ伴奏も音楽の先生に頼らず、自分たちで何とかしようという気持ちが伝わってきて、思わずジーンときてしまいました。

その日の午後には、同じ会場で「清水高校の総合学科を語る集い」を開催しました。清水高校振興会会員をはじめとする地域の方々や近隣の中学生、卒業生、生徒、教職員を含め約100名の参加がありました。在校生による学校説明、卒業生によるパネルディスカッションとその後の座談会に加え、授業で取り組んだ「清水町の発展を考える」の発表などが行われ、高校と地域・社会との繋がりを会場の全員で再確認することができました。



【「清水町の発展を考える」発表】

「自転車セーフティラリー」で表彰されました！

12月13日（木）、本校は新得警察署から自転車セーフティラリーで表彰を受けました。車や歩行者との接触など、交通事故の原因となる自転車の危険走行やスマホながら運転が社会問題にもなっている昨今、本校高校生の自転車の放置や違反によるイエロー切符などがなかったことが評価されました。

本校を代表し交通安全推進委員長である2年次の岸田さん（清水中出身）が、石川憲章署長より「完走証明書」を頂戴しました。この表彰を契機に本校生徒の交通ルールやマナーを守る意識がさらに高まるとともに、この地域での交通事故ゼロを願っています。



【「自転車セーフティラリー」表彰】

アイスホッケー部の全道大会を全校応援しました！

12月20日（木）、帯広の森アイスアリーナを会場に行われた第71回北海道高等学校アイスホッケー競技会選手権大会に出場した本校アイスホッケー部の試合で、全校応援を実施しました。これまで、試合の時間や会場、授業や行事との兼ね合いなど諸々の条件が整わず、有志応援や自主応援の形を取っていたため、全校応援は9年ぶりとなっています。

野球部部員や生徒会執行部が中心となって、前々日から二日間の昼休み全体応援練習など準備を進め、当日は高校生らしく、元気で爽やかに、一丸となった声が会場に響きました。部活動はもちろん、行事や授業に全力で取り組んでいる本校アイスホッケー部員を、心から応援しようという気持ちがそうさせたのだと感心しました。

試合には敗れましたが、来場のたくさんの皆さんから「素晴らしい応援だった」と声をかけられたことを一つの成果と捉えるとともに、アイスホッケー部が全生徒からの応援の気持ちを追い風に、1月に青森で開催される全国大会で雪辱することを期待しています。



【アイスアリーナに集合した生徒】



【試合に臨むアイスホッケー部】

にんじん入りのパン…おいしかったよ～食育交流



12月11日(火)清水高校の生徒さんと食育交流をするために清水高校に行ってきました。着くとお兄さんたちが待っていて、控室に案内してくれました。すぐに着替えをして、実習室に入り、ニンジン入りのパン生地を丸くこねたり、くるまやへび、くまなど思い思いに形作りました。事前に粘土で練習して行ったのですが、思うようにはうまくいかず、高校生に手伝ってもらいながら世界に一つのパンを二つ作りました。

その後、膨らませるオーブンに入れて、焼き上がるまでの時間にスイーツの味比べをしながら「甘い・酸っぱい・しょっぱい・苦い」4つの味の違いを学習しました。また、お兄さんたちの寸劇(ドラえもん)で、野菜を食べる大切さも学びました。

パンが出来上がると焼きたてを1つずつ食べ、残ったパンをお土産に持ち帰りました。閉会の時には、『味博士』の認定証をいただきました。さらに、帰りには、壁や階段に隠れている流行の「ミニオン」などのキャラクターをたくさんいただきました。

自分でついたお餅は最高

12月13日(木)に、恒例の餅つきをしました。お父さんたちが大きな杵をもってこね始めると興味津々。「本で読んだとおりだ～」とみんな『し～ん』としてこねる様子を見守りました。

お父さんたちが軽快な掛け声とともにつき始めると、目を丸くしていた年長さんですが、自分たちのつく番を今か今かと待ちながら、「よいしょ！よいしょ！…」と大きな掛け声をかけてくれました。自分たちのつく番になると、体を前後に動かして一生懸命杵を振り下ろしました。お父さんやお母さんも大きな声で応援してくれました。出来上がると、お母さんたちが4cm位の大きさに切り分けてくれた餅を“みたらし”に和えて思いのほかたくさん食べることができました。

父母の方々も職員も、疲れを忘れたひと時でした。



第一保育所

今年もサンタさんがやってきた！

子どもたちが毎年楽しみにしているクリスマス会に向け各クラスで帽子や壁面製作を行いました。クリスマスツリーは、年長児を中心に飾り付けをしました。

ある日、サンタさんからの手紙がクリスマスツリーに届いており、見つけた子どもたちは大喜び！

その日からサンタさんが来てくれることを心待ちにしていた子どもたち。そして待ちに待ったクリスマス会当日は、年長児



による平和の祈りから始まり、各クラスで作ったオリジナルの帽子を紹介したり、歌ったり、踊ったり、職員による演奏会を楽しんでいると突然鈴の音が・・・！！

遊びに来てくれたサンタさんに質問したり、楽しみにしていたプレゼントをもらったり、子どもたちは幸せなひと時を過ごすことが出来ました。最後には一緒に写真も撮り、「ありがとう！」とお礼を伝えました。いい子にして、来年もサンタさんが来てくれるといいですね～！！

(保育士 恩田理加)

第一保育所の誕生会を紹介します

4月から毎月、誕生日の子が主役になれる誕生会をしています。遊戯場に0歳児から年長児までの全児が集まりお祝いをします。遊戯場の入り口にその月の誕生日の子が冠をかぶって並ぶと、BGMがかかり入場です。みんなの前に並んで座り、1人ずつ自己紹介をします。小さい子は名前を呼ばれると「はい」の返事、5歳児になると自分で名前、年齢を発表します。友達から「好きな食べ物は何ですか？」や「何色が好きですか？」などの質問コーナーもあり、いつもは人前で話す事が恥ずかしくてもじもじする子も誕生会では元気に話す姿を見せています。



1年に1度の誕生会。子どもたちは自分の誕生会はいつだろう？と、楽しみにしながら友達の誕生日を祝う気持ちも育てています。紹介の後はその月にあうお話やペープサート、マジックなどの職員の出し物を観て楽しい誕生会を過ごしています。

(保育士 菊地明美)

第二保育所



あいかとう ～サンタさん



12月21日（金）は子どもたちがわくわくドキドキで待っていた「クリスマス会」でした。サンタさんからの手紙が届くと、子どもたちはわくわくが止まらない様子で過ごしていました。そんな中、年長さんのキャンドルサービスで幕を開け、「みんなが風邪をひかないで元気に大きくなりますように」と大きな声で発表。いつも賑やかなこどもたちも、珍しく静かな（?!）雰囲気になりました。



サンタさんが登場すると、子どもたちのボルテージは最高峰に到達し、質問をしたり、フォークダンスを一緒に踊ったり、笑顔が満開の一日になりました。

大きな身体でメガネの奥の優しい目が印象的なサンタさん！来年もまた来てね！！



（保育士 青 沼 広 子）



ピカピカ 大作戦！！ 年長さんの大掃除



年末に各クラスで大掃除をしました。その中で年長さんは、皆が使う遊戯場と廊下の床磨きをしてくれました。広い遊戯場は横一列に並び「ヨーイ・ドン」の掛け声でスタート。いつもはふざけてしまう元気一杯のそうぐみも、わき目もふらずに真剣に突き進み、廊下は5人ずつ交代で行いました。ピカピカになった床を見て、先生たちからは「ありがとう」と声を掛けられて満面の笑顔で少し照れていました。

色々な経験を通して成長しましたね。



（保育士 中 口 輝 美）

縦割り保育の集大成！

発表会が終わって、3歳以上児クラスは縦割り保育になります。運動会、発表会と大きな行事をみんなで盛り上げ、最後の行事「おみせやさんごっこ」を11月に行いました。新年度が始まったときに、年長児は年少児とペアを組みます。おみせやさんごっこの時期になるとペアはまるで兄弟のようです。互いに信頼し合ってとても良い関わりをしています。

発表会では縦割りクラスで劇を行うので、セリフを合わせて言ったり、出番を教えあったり、自分だけではなく、みんながいるという安心感、1つの劇を協力して作り上げていました。クラスで一体感があり、年長児がリードしてクラスをまとめています。そこで行ったおみせやさんごっこは、何をするか考えるところから、役割決め、商品を作る材料決め、ゲームがおもしろくなる工夫など保育士の私たちも驚くほどに自分たちで決めようとする姿勢が見られていました。当日は、お客さんが来ることを喜んで、また張り切って役割を全うしていました。



何より嬉しかったのは、看板作り。私の受けもつクラスの看板はみんなの顔が描かれています。クラスの仲間を大切にして、みんなで作ったおみせやさんごっこを象徴しているように感じて、担任として嬉しい一コマでした。

ぼく、私もやりたい！

クラス保育の時間の他に異年齢が関わる朝の保育などがあります。そこでボール遊びやフラフープ回し、なわとびなどをして遊んでいます。小さいクラスの友達は大きなクラスの友達がしている遊びに興味津々。年長児がバンブーダンスや跳び箱に挑戦していると、他の年齢の子も目を光らせて「やりたい！」と取り組んでいます。また、大縄跳びに年少児も挑戦し、数十回跳べるようになった子もいます。



興味をもつことは良いことで、何度もチャレンジしているうちにいつの間にか出来るようになってくる子、また、なかなか出来なくても諦めずチャレンジする子。いろいろな子どもたちがありますが、1つのことに一生懸命に挑戦する気持ちを子どもの目線で受け入れて、一緒に出来るようになったときに喜ぶことをとても嬉しく感じます。どうしても「できない」と苦手意識をもっている子もいますが、それでも子どもたちはお互いに教え合ったり、時間が経つとまた気になって自分から遊びの輪の中に入ったりしています。何事も諦めないこと、また出来るようになる喜びを小さいながらに感じていることをこれからも見守っていきたいです。

(保育士 萩生田 彩)

しつけはみんなの力で

今やロボット掃除機が、自動で家中を綺麗にしてくれる時代です。そんな中、学校では依然として掃き掃除にほうきが使われています。子どもたちは、家でほうきを使うという経験がないわけですから、当然、使い方を知りません。逆に握ったり、振り回したり、さまざまな使い方をします。それを経験がないからできなくてもしかたがないと見過ごしてはいないでしょうか。学校は掃除でほうきを使わせるのですから、教師はしっかりと指導をしなければなりません。学校での掃除は、今や家庭の「しつけ」の延長ではないのです。唯一学校が体験の場と化しています。

鉛筆の持ち方も然り。正しい持ち方をしている子の方が少ないと思います。家庭でのしつけが昔ほど厳しく言われなかった時代です。子どもは家庭で指導されていないのです。子どもは知らないから気にもせず、間違っただけで慣れてしまうのです。

ほうきにしても鉛筆にしても、使い方、扱い方を子ども自身が理解し、知る事が大事なのです。

例えば鉛筆の持ち方でしたら、親指、人差し指、中指を鉛筆のどこにあてるか、実際に握らせ、具体的に教えるのです。一度間違っただけでしてしまおうとなかなか直りません。面倒でも、根気よく何度も繰り返し、訓練することが大事です。

子どもは体を通して、具体的な経験を通して、身に付けていくのです。なすことによって学ぶのです。

今、学校現場ではどうでしょうか。しつけの働きかけは、あまり見られないように感じます。しつけの指導はとても大事です。学びを支える基盤となるからです。

「教育の四季」が取り組む「挨拶・返事・後片付け」「早寝・早起き・朝ご飯」等、「生活のしつけ」はその時々徹底した指導をしなければなりません。

これは学校がやるべきこと、これは家庭がやるべきこと、「だから知りません」で片付けるのではなく、生きる上で必要な「学習のしつけ」や「生活のしつけ」を家庭・学校・地域が一丸となってみんなで徹底することが大事です。

(教育指導幹 清水彦一)



家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

冬～厳しさに生きる人の中で きたえ磨く

家庭・学校・地域

今月の取組

家庭は、みんな揃って

楽しい団らん

地域は、向こう三軒

みんな家族